



改築後の2代目県庁（1915年7月・県史編さんグループ所蔵）。

青森県庁は1871（明治4）年12月1日（新暦で成23）年9月1日は、東北は翌年1月10日）に開庁して以来、一貫してほぼ同じ

位置にある。2011（平成23）年9月1日は、東北本線の上野・青森全通120周年で、JR東日本や青森県庁も開庁140周年なのだ。今回は

概観しておくたい。

初代県庁は弘前藩の御飯屋を改築して開庁している。だが、御飯屋県庁は広すぎて使いづらく、建物自体が老朽化していた。そのため1882（明治15）年1月4日、庁舎を新築する

ことになった。

2代目となる県庁は初代県庁の跡地に建てられ、文明開化の影響を受けて洋館となった。玄関は初代県庁と同じく北向きだった。当時は鉄道がなく、浜町にあった棧橋が県外との交流窓口だったからだ。

この県庁は1908（明治41）年、皇太子嘉仁（後

青森県庁

開庁140周年

中国 裕

（県民生活文化課

県史編さんグループ 主幹）

め、現在の県庁北棟付近にバラック建ての県庁ができた。3代目となる県庁は、1946（昭和21）年3月31日に落成。平屋建てで正面玄関は西向きだった。だが、同年11月24日、庁内からの出火で全焼。背後にあった青森県立図書館の書庫にも火が入り、書庫内の図書や資料は灰燼に帰した。

空襲と火災で2度も庁舎を失ったが、戦後の資材難で鉄筋製の庁舎は望めなかった。そのため4代目県庁は、1948（昭和23）年1月20日に木造2階建てで落成。玄関は東向きとなった。4年後、県庁の東隣に青森県立中央病院が開院。2年後、県病の北側に青森県立図書館が開館する。県庁前の広場は戦後青森県の政治や経済、そして社会や文化の拠点になった。

この後、5代目となる現庁舎が1961（昭和36）

年1月22日に落成式を迎える。正面玄関は南側で国道沿いとなった。青森県も高度経済成長に突入し、国道が流通の中心になることを見据えていたわけだ。現県庁は今でこそ老朽化が目立つが、落成当初は全館に水洗トイレとエレベーターを備え付けた斬新かつハイカラな建物だった。県庁をデザインしたのは谷口吉郎。東宮御所も造った著名な建築家である。当時、この県庁は青森県で最も高い建物だった。そのため県内各地から多くの人びとが見物にやってくる。新設のエレベーターは子供たちに大人気で、彼らの格好の遊び場になった。

歴代の県庁舎には、青森県の近現代史が象徴的な形で刻み込まれている。そして正面玄関口の移動が象徴するように、県都青森市の推移をも反映しているのがある。